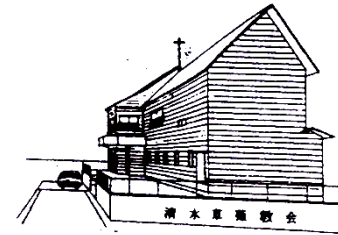


週報

2008年 8月 3日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

《今朝の聖書から》今朝の聖書箇所は『コリント人への第一の手紙』2:1~9です。この箇所でパウロは、知恵について語ります。私たちはこの世を生き抜くために知恵の限りを尽くそうと努力します。そしてこの知恵の行き着くところは、知恵のある者にとっての知恵、神の奥義である“イエスキリストを知る知恵”なのです。“わたしは福音を恥としない、それはすべて信じる者に、神の救いを得させる神の力である（ローマ1:16）”と語っています。また“おろか者あつかいされてもよいから、すこし誇らせてほしい（Ⅱコリント11:16）”とも語っています。どんなことでしょうか。ちょっと考えてみましょう。何か教会で行事をする時、“こんなことは初めての人にはわからない、だから皆に分かるように福音のメッセージは後にしよう”と考えた瞬間に、福音を語ることを差し控え、恥ずかしいと思っていることが多いのです。みんなの理解できるところで留めておこう、さもないとバカにされてしまう、と思ったら、福音を恥ずかしいと思っているのではないのでしょうか。私たちの語り得る最高のことを語っても、“何を言っているのかわからない”と言われるだけで恥ずかしい、と思った時、配慮しているつもりでも、それは一種のおごりになってしまい、この世の知識で誇れることを誇ることにしかならないのではないのでしょうか。パウロは、十字架についてのみ語ってゆくことに努力したことを証しています（1, 2節）。一番“愚かだ”と言われかねないことのみを語ったというのです。恐ろしくもあり、理解してもらえないかどうか不安でもあった時にこそ、そうしたと言っています（3節）。しかしパウロは弱かったのではなく、全てのものに勝ち得て余りある知恵に満ちていました。その知恵は、霊と力の証明に支えられていたのだ（4節）と語ります。しかしこの世の知恵と価値観は、救いに至る知恵とは相いれないものと、はっきり理解している、コリント教会の円熟した（6節）兄弟たちには、当たり前のこととして今語ろうと、続けます。神の知恵と私たちの受ける栄光のために、神があらかじめ定めておかれたものである（7節）、と真理を語っているのです。教会でもこの世で評判になることを賜物と言い、この世の才能を誇らしく思えた時、主とどれだけの係わりがあるのか考えましょう。